



レインボー岡山ワークショップ

10/14(土) 10:00~15:00

場所=山香庁舎1階ホール(杵築市山香町大字野原1010-2)

定員=20名【要予約】

タイトル「虹のトレーニング」

虹を架ける為に必要なものはなんだろう？
大切な事はなんだろう？
その「答え」がここにあります。

でもそれは目に見えないかも知れません。

あなたの五感と第六感を使って
「答え」を探してください。

※見学者 出入り自由



榎園歩希 ワークショップ

10/14(土)~12/3(日) ※土日のみ公開
10:00~17:00

場所=八旗八幡神社おかりや(杵築市山香町内河野2724-1)
自由参加(持ち物は不要ですが、使いたいものがあれば持参しても構いません)

タイトル「湧く湧くナイゾウ」

段ボールなどで子供たちが長期的に制作した作品を組んでいき、そこに来場者が現場にあるものを使って制作に合わせ、少しずつ「増殖していくモニュメント」を作ります。身体の内臓と内蔵する気持ちを、どンドン爆発して分裂して結合して、さあ、どんなモニュメントになるでしょうか？

松本裕和 展示

タイトル「場所を見つける場所を作る」

竹を使った自由なあそびの場所づくり

10/14(土)~12/3(日)

※土日のみ公開 10:00~17:00

場所=八旗八幡神社おかりや(杵築市山香町内河野2724-1)



吉川 順トーク&ライブ

タイトル

「餌付け人生~元不登校児の成れの果て」

10/21(土) 14:00~15:30

場所=アルアワス(杵築市山香町大字野原1)

「なにもしないことをするための場所の方へ」

伊藤昭博 榎園歩希 レインボー岡山 木村秀和 ワークショップコンセプトなどの展示

10/14(土)~12/3(日) ※土日のみ公開 10:00~17:00

場所=八旗八幡神社おかりや(杵築市山香町内河野2724-1)

片岡祐介 即興ワークショップ

タイトル

「その場でチャカポコ楽団
-音のコミュニケーションしてみよう!」

11/4(土)

場所=山香庁舎3階 多目的ホール
(杵築市山香町大字野原1010-2)

定員=30名【要予約】

【第1部】 その場でチャカポコ 10:00~16:00
楽譜を使わずにその場で気ままに音楽します。

【第2部】 音のコミュニケーション 13:30~15:30

その場でチャカポコを続けつつ、
さらに音のコミュニケーションを深める工夫を試みます。

※1部2部通して、もしくは1部のみ2部のみどちらでも参加できます。



木村秀和 ワークショップ

タイトル「音探偵団」

地図を持って街中に設置された音のなる仕掛けをならしたり音を聴いたりしながら自由に散策します。

10/28(土)~12/3(日) ※土日のみ

10:00~17:00

スタート地点=アルアワス(杵築市山香町大字野原1)

自由参加

●ガイド付き散策ツアー

10/29(日)~12/3(日) ※日曜のみ

14:00 アルアワス出発

タイトル「だれがどこへ」

野外で音の交信を試みるワークショップです。

10/28(土)・11/18(土)

14:00~16:00

場所=山香庁舎1階ホール
(杵築市山香町大字野原1010-2)

定員=20名【要予約】

※雨天時は室内で聴くことを
主にしたワークショップになります。



伊藤昭博(凧万) ワークショップ

タイトル「みんなで連凧を作ろう!」

12/2(土) 雨天時は3(日)に延期

10:00~12:00 連凧作り

13:30~凧揚げ

場所=杵築市山香庁舎芝生広場(杵築市山香町大字野原1010-2)

定員=100名【要予約】

※絵の具を使います。汚れて構わない服装でご参加下さい。

諸星和夫・船尾 修・二宮圭一 鼎談

タイトル「大人の仕事と子供の宇宙」

11/25(土) 14:00~ 場所=アルアワス(杵築市山香町大字野原1)



レインボー岡山

1962年福岡県生まれ。現在、熊本県阿蘇郡小国町在住。
学校やアートイベントを中心に各地で虹色の風景を
参加者の皆さんと一緒に創っている。

あちらこちらを繋ぐ形の虹。

人と人、人と出来事、人と夢を繋ぐ、架け橋になりたい。
出来れば虹色に輝いて。

©Hiroshi Sugahara



松本裕和

1977年 静岡県焼津市生まれ

2016年 大分県立竹工芸訓練センター修了

プラスチックからプラスチックへをコンセプトに竹製品の製作&販売を行っています。昔から竹は暮らしの中で様々なことに利用されてきました。しかし、その竹がプラスチック製品に代わってしまったことで、現在様々な問題が発生しています。地域の竹で作られた竹製品を使うことが、それらの問題解決への小な一歩となります。日本で一番古い物語と言われる『竹取物語』。かぐや姫は竹の中から発見されましたが、見つけた翁は竹細工を生業としていました。古来より日本人は竹を様々なことに利用して暮らしてきました。竹は我々日本人が生きてきたルーツでもあります。『竹がある暮らし』、始めてみませんか？



片岡祐介

1969年生まれ。子どもの頃から作曲や即興演奏に興味を持ち、木琴やピアノの演奏を自己流で始める。東京音楽大学を中退後、映画やコマーシャル音楽での経験を積んだ後、97年から2000年まで、岐阜県音楽療法研究所にて研究員として勤務し、障害児者との演奏共演を多数おこなった。06年にはNHK教育テレビの幼児向け音楽番組「あいのて」に出演し、生活の中の身近なものを使って音を作り楽しむことを伝えた。現在は、Youtubeのライブ配信機能を使って、観客とやり取りしながら演奏するコンサートを開催したり、クラシック音楽を解説しながら演奏するコンサートや、即興演奏や歌づくりなどのワークショップもおこなっている。著書に、CDブック『即興演奏ってどうやるの』(共著 あおぞら音楽社)がある。



吉川 順

1966年生まれ57歳

16歳で不登校引きこもり

20歳初代由布院空想の森美術館勤務

傍らでゆふいんロックコンサート、

祝!卒業コンサート13年開催

35歳で由布院空想の森美術館閉館

37歳で画廊喫茶開店2年で閉店

以後、製造業の派遣労働等経験

43歳 某湯布院の旅館で上司、

先輩3人からパワハラを受け、鬱病を発症。

現在、日出町の障害者支援施設にて勤務

著書に「ゆふいんロック青春記」がある。



船尾 修

1960年神戸生まれ。22年前に東京から大分県へ移住。写真家。無農業で米をつくりながら、地球と人間の関係性に立脚した写真作品の制作を続けている。代表作に、「満洲国の近代建築遺産」、「フィリピン残留日本人」、「カミサマホトケサマ 国東半島」、「石が囁く」『UJAMAA』など。第42回土門拳賞、第25回林忠彦賞、第16回さがみはら写真賞、第1回江成常夫賞などを受賞。杵築市山香町在住。



木村秀和

美術家 オトノミチスト

山香町で山仕事に携わる。

2000年に作業中の事故で脊椎を損傷し椅子の生活となる。

2007年より豊後大野市の社会福祉法人萌葱の郷で自閉症の人達の美術制作をサポートする仕事に関わる。

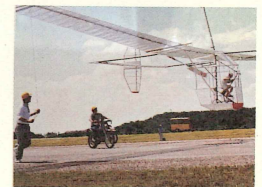
現在、美術表現なども含めた言葉というもの
の成り立ちに関心があり少しずつ勉強中。
無手勝流でため音楽を探究している。



榎園歩希

1978年大分市出身。美術家として東京を拠点に国内外で活動していたが、コロナ禍が動機となり大分県にUターン。現在は旧朴木小学校にて子供協働アトリエ「ホーノキアトリエ」を主宰し、毎年美術展示を開催。
<http://ayuki.info/>、<https://honoki-atelier.com/>

「点転天ten ten ten展」10月13日(金)~11月13日(月)
10時~18時の金、土、日、月のみ開場。観覧無料。ホーノキアトリエ(由布市旧朴木小学校)



諸星和夫

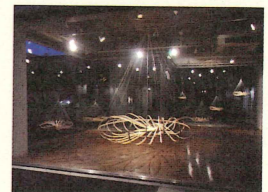
工業デザイナー

(トヨタのデザイン部門を担当)

1963年 千葉大学工学部工業意匠科 卒業
トヨタ自動車入社

2003年 定年退職後 モロモロ塾を開講
現在に至る

カローラ 愛される車を目指して
人力飛行機 人の力で空を飛ぶ
パブリカスポーツ 幻の車の復元



伊藤昭博

現代美術家

かつては大木などを使った重厚な作品を発表することが多かったが、次第に引力から解放されたかのように、近年は浮遊するような軽快な作品が目立つようになった。大分県特産の竹も素材として使う。児童教育研究の一環で凧揚げにも詳しい。



二宮圭一

2021年 故郷の山香町に帰還する。米づくりをしながら、この地域での暮らしに関わるあらゆることを主題に様々な活動を試みている。

2022年 カタシカイカキカキ芸術祭の開催に伴いJR中山駅前にある、新庄旅館を改装した交流スペース、アルアワスを活動拠点として運営している。

カタシカイカキカキ芸術祭実行委員会委員長。

ワークショップのお申し込みはこちら 木村秀和 mucunhidekazu@gmail.com 080-6440-2085
・ワークショップは参加費無料です・昼食は各自でご用意ください